

令和5年度 幼児教育研修（新人）（足立区教育・保育の質ガイドライン）

「保育の基本」（第1回）

日時：令和5年6月23日（金）14:00～16:00

会場：足立区生涯学習センター

講師：日本体育大学 教授 齊藤 多江子 氏



受講者数 71名

子どもの主体性を尊重する

子どもは、人間としての尊厳を認められているために、人としての権利の主体である。

乳幼児期の教育は、権利の主体としての子ども一人一人を大切に、豊かに育むことである。

子どもの主体性を尊重するとは、子どもの自発的な動きと意欲を尊重することである。

子どもの主体性とこども理解

その子の主体性を理解すること

一人ひとりの子どもを理解すること。

主体性を尊重する

子ども理解に基づいた一人ひとりへの援助方法や保育環境を整える。

主体性を尊重するための方法を考えること

個別性への配慮

各人が演習に取り組んだ後に

「子どもの最善の利益」「子どもの主体性」について考えグループワークをしました。



研修報告書より



研修後、各自が自園に戻って取り組むことを設定し、実践した後に報告書を書きました。

子どもの声に耳を傾け、思いを汲み取り、一人一人に合った言葉かけをするように心掛けたことが、子ども達の行動の背景を理解することにつながった。また、興味の矢印が見えてきて、一人ひとりに合ったアプローチができるようになったと感じている。



思いを受け止める際に子どもが受け止めてもらえたと感じることが出来るよう、何かをやりながらでなく手を止めたり、目を合わせやり取りをするようより心がけた。関わった後に子どもの姿を先輩保育者に伝えることで、先輩保育者のその子への考え方を聞くことが出来、その子へのとらえ方が広がった。



1日をどう過ごすかを考えると集団のことに意識が向きがちだと感じた。生活をする中で、個を理解しようという意識をすることで、進級当初からの成長も見え、その上でどのような関わりをしたいか考えることに繋がった。また、それがクラスとしてどのように過ごすかにも繋がると感じた。



選択肢を作ることで子どもが選べるようになりました。個々への理解を深めることで、一人一人への関わり方に変化があり、主体性・子どもの最善の利益、「個」の育ちを大切にされた保育がいかに重要であるかを実感した。



一度気になった事をそのままにせず、担任間で話し合い、保護者の方に子どもたちの一日の様子を伝える事が出来た。引き続き自分の言動を振り返り、職員間で確認し合いながら過ごしていきたいと思う。



遊びそれぞれに子どもの思いや考えがあると改めて意識して、子どもの言動などからくみ取れるように表情や行動を良く見たり、聞いたりし、子どもとのやり取りでより深く見えてくると実感しました。



振り返りシートを用いて、自分の保育の振り返りを行ってみると、やっているつもりでも何気なく行っていたりと、シートを用いたことで、自分の曖昧だった部分を客観的に知ることが出来た。自分の保育力を高めていきたい。

